

結局みんな楽しんで帰ってくる

語り手 谷本 幸多朗（高校十七期生 情報理工学部）

聞き手 齊田 陽愛

大学について

—なぜ情報理工に進みましたか？

まず正直な話すると、将来、安定が欲しくて需要がある会社に行こうと思っていました。そんな中で、今、自分がやりたいことの中で情報理工が一番需要あるかなあと思って選びました。

—情報理工で何ができますか？

基本的にプログラミングですね。ほとんどの場合はIT系の職種に進んで行きますね。あとは、セキュリティ関係とか、AIとか。

—物理と生物選択はどうやって決めました？

僕はその情報理工に行こうと思ってた時に、まず生物をとらないと行けないという学部がなくて、逆に物理を取って行けないと行けない学部はあったので、可能性を広げるためには物理やっとないとなくと思って。

—確かに確かに。

他の理由としては、生物は暗記が多くて、物理は理解度があつたら公式とか覚えとけばできちゃうから、それやったら、自分の相性的に生物よりも物理の方が合ってたから物理選んだ。

—なるほど。選択で後悔してる人とかいました？

めっちゃいたね。物理を選んだ人で、生物へ行つとけばよかったっていう人もいたら、逆に物理の方が簡単やったみたいなんで、物理にしとけばよかったって後悔してる人も多かったけど、基本的に物理選んでる人の方が後悔してる人は多かったかな。

—なるほど。なんでですか？物理の方が難しいと感じる人が多いからですか？

そうやね。記憶すればできちゃうのが生物やから、そっちの方が簡単っていう人が多くて。となると物理よりも生物の方が良かったなって思う人が多かったね。

—学部選びミスったなとかありました？

学部選択、人によるかな。俺はあんまりミスってないと思って、でもミスってるって言ってる人は結構いるね。

やっぱ簡単な学部と難しい学部があつて、情理は結構難しい部類に入るから。数学を大学入ってもやり続けなあかんねん。

—やば。サークルはどこはいつてますか？

バレーと、あとは子供と遊ぶインカレのサークル。いろんな大学が集まるボランティア。

—ボランティア。楽しそうですね。

—一緒に無人島行って泊まったりする。

—え！無人島、子供と？

うん、行つたで。めっちゃ楽しいで、キャンプみたいな。テントで寝て。

—海で泳いだりとかですか。

あ、そう。夏休みは泊まりがあんねん。

—すご。

夏休み以外だと、土日に一日だけの、例えば川で遊んだりとか、運動会したりとか、そういうなんがある。楽しいよめっちゃ。

—自分で企画したりとかってことですか？

そやな。大学生が企画して、大学生が運営もしてって感じ。

高校生活について

—共創探究のクラスでは何をしてました？

俺はびわ湖のプラスチックやってたかな。

—ゴミ問題。

ああ、そうそうそう。

―琵琶湖とかつて、フィールドワークで行きました？

行ったね、一応。ゴミ清掃のボランティアに参加した。そのボランティア活動を通して学べたと思ったのが、大人と関わるやんか、てなったら、高校生のとか中学生生活とは全然違うマナーとかさ、色々学べるから。それはすごい大きかったな。それが今のバイトとかにもいきてる。

―なるほど。次は、部活で楽しかったこととかありますか？バレ―部の副部长やってたって聞いたんですけど。

キャプテンにほぼ任してた。なんて言うんやろ。あんまりそういう立場、関係がなかったかな。キャプテンやからどうこうみたいなのは、あんななかった。後輩とも仲良くなれたし、部活は先輩からも可愛がってもらえてたし。

―いいですね。

ね。大学なってもまだ全然、先輩と関わりあるし。

―え―すご。

先輩にめっちゃ定期的にご飯連れてってもらうし、

―めっちゃいいっすね。

遊びも連れてってもらうし。俺、五月で一応、大会はラストやってん。辞めたんやけど。そこから後輩に教えに行くために十二月まで残って部活、教えに行つて、一人だけの三年やった。―すご！すごいよな。まじすごいと思う。だから後輩にも、慕われてる。

そうそう。で、それでずっと教えてて思ったのは、なんて言うんやろ。やっぱ先輩いる時の後輩ってめっちゃ、ちっちゃくなってるなと。

―それはそうっすよ。

―そりやそうやな。

―そりやそうです。

もうもつと早く素を出してくれていいのになって思ってたら、

みんな舐め出して。

―まあ、優しいからじゃないですか？

なめられる体質ではある。後輩から。

―まあでもそういう人は後輩から好かれますよ。

でも、めっちゃいじられるな。

―え、でも、定期的に行つてるの優しい。なんかめっちゃありがたいですか、そういう先輩。優しくって、なめてもよくてみたいな。

でもそのたびに後輩から「おごってくださいよ」って言われるやん。ちよつと金欠できつい。

―大変だ。

金欠やで、まじ。

―え、もう「遊びに連れってください。」みたいな？

そう。遊びに行ったり、ご飯行ったりして。ご飯が多いかな。やっぱ。ご飯食べに行つて、それで消えてくね。

―大変だ。

そうやな。ちなみに京都住みやろ。それやったらどこのキャンパス行きたいとかあるん。

―ないですね。

―ないんや。

―学部があんまりわからんくて。

学部は調べたほうがいいで。

―OKです。頑張ります。海外研修の話聞きたいです。そろそろ夏休み明けに、もう希望聞いてくるらしくて。

どこにすんの。

―ベルリンが、第一候補です。

え、凄。ベルリンとかあったんや。

―なかったですか？

それ。去年からやな。俺らの代はなかった。なんかあれやんな。ナチスとか。

―そうです、アウシュビッツ見に行ったりとか。

フィンランドおすすめすんで。

―あ、フィンランド行った人。

うん。

―あれしますよね。プログラミング。

うーん、ないで。パソコン触ってない。班のメンバーのフィンランド人が、なんか喋りながらずっとやってくれてて、俺らはずっと「どこら辺に住んでるんですか。」とか、めっちゃずっと話してただけで終わった。

―十日の半分ぐらいあるじゃないですか？プログラミング研修みたいな。

ある。でも、言うて、十時ぐらいから一五時ぐらいの間に、お昼休みもあるし、三、四〇分したら休憩入ってたりして、一日でそんな、ほぼ喋ってるだけ。

―え、じゃあその後どうしました。午後三時以降は。

一五時の後は色々。スーパ―行く人は行ってもいいし。

―個人行動みたいな。

―そうそうそうそう。

―え、面白そう。

めっちゃ面白かったで。何時までに帰ってきてみたいに言われるだけやったからな、適当にもう歩きまくって。

フィンランド、治安がいい、悪い。

治安めっちゃいい。

―じゃあめっちゃ良さげですね。

あと通訳いてびっくりした。

―通訳、いるんですか。

うん。

フィンランド語との？

いや、英語との通訳。先生が話さはって、あっちの大学の人が話してはって、それを隣で日本語に変えてくれる人がいて。

―すご。

で、ぐるぐる回ってはんねん。結局フィンランド人と喋りたがらはるから結局「へー」とか思いながら。通訳してくれはんねん。

―めっちゃすご。

―あとは単純に楽しい。

―あれ、行きました？サンタ村。

―あ、いったいった。

―あと、シベリアの。

シベリアはな、犬ぞり。

―え、めっちゃ楽しそうっすよね。

―楽しい。めっちゃ楽しい。

フィンランドとかヨーロッパって、絶対なんか全然行かへんじやないですか。

行くことないよな、フィンランドとかは。

―やから、バリとかじゃなくてそっち系いきたいくて。

―バリは絶対行けるもん。

―だって行きますもんね。

―観光地やもん。

―しかもなんか物価とかも安いじゃないですか。やから別に今回の海外研修でわざわざいかんくてもなー、て思ってた。

―周りで行ってる人いっぱいいるしな。普通に大学生で。

―だからそこはノット。とりあえずノットで、

アフリカは？

―なんかそっち系あります。タンザニアとか。

―ワンチャン死ぬよな。

―え。絶対。なんか死にそう。え、だって蚊とかいますし。

―うん。いるな。虫な。

―虫怖いっすよね。で、あとカンボジアとかもめっちゃ楽しそう

だったんですよ。動画見たら。

—そうなん。去年の？

—そうです。

—どんなんやったんやろな。知らんねん。なかったから、俺らの時。

—フィンランドと何がありました。

—フィンランド、エストニア、アメリカで二つぐらい。

—シカゴだけじゃないんですか？

—シカゴと、ニューヨークもあった。あと何やったつけ。

—バリ。

—バリない。

—え

—あとオーストラリア。あと何やったつけ。忘れた。

—自分のが一番楽しかったって感じですか？ やっぱ。

—うん。フィンランドは楽しい。ホテルやから、ホームステイじゃないから、めっちゃめっちゃ楽しい。

—もう皆、夜更かしとかりますか。

—ホテルやから全然できるで。

—えー、楽しそうですね。

—部屋移動も自由やしな。

—すご。

—先生がすぐ寝るタイプの先生やったから、二人とも。

—えじゃあもう、先生によって厳しさがちゃうみたいな感じですか？

—うん、それはある。あ、カナダあったわ。海外研修。

—えー、あ、今年復活しましたよ。カナダ。

—そうなんや。ザ・ホームステイみたいな。全部日程ホームステイみたいな。

—えー。じゃあ結構旅行ってより研修って感じですね。

—しかもホームステイやから、当たり前外れでかすぎる。

—しかも学校行くんですよ。現地の高校行って、みたいな。

—あんま知らんな。知ってんのは、全部ホームステイして、その人たちと遊ぶみたいな。なんか人によっては、四六時中、子供のお世話。

—え。面倒見。かわいそう。

—親が帰ってきたらご飯食べてみたいな。

—やば。

—楽しくなかったって言うてる人もいたし。ホームステイしな

—かんから、ご飯が合わへんとか。

—確かに確かに確かに。

—あと、なんか海外はホームステイを職にしてる人みたいなのがいて、部屋をいっぱい持ってて、そこにいろんなホームステイの人がいるみたいな。だから、一緒にホームステイしてる人が七人ぐらいいて、で、朝ごはんとかは、冷蔵庫に入ってるの勝手に食べて、みたいな。

—やば。

—それで、今回だって、もしさ、カナダコースの希望者全員ホームステイってなったらさ、俺らの時、カナダ枠、百人ぐらいや

—たから。

—え。

—めっちゃ人数多かった。なんかカナダだけ倍以上あって、もう

—ほとんど、「みんなでカナダ行こうぜ。」みたいな。みんなホームステイやからばらせるやん。んで、半分ぐらいは疲れて帰って

—きてた。

—やば。半分。やっぱホームステイ当たり外れやばいすね。でも

—カナダぐらいじゃない。ホームステイは。あ、わからん。

—でもフィンランドはホテルやったな。全部。

—ホテルが一緒やったら、研修っていうか、修学旅行じゃないで

—すか。

うんうん。そうそう、ホテルのが絶対楽しい。あと、フィンランドはオーロラが見れる。

—え。見れたんですか？

—見えてないね。一個上と一個下は見れてた。俺らの代だけ見えてない。

—かわいそうですね。

—そうやねえ。

—でも、そういうことなら、うちの代も見れへんくないですか。あんまり関係ない？

—運やろ、絶対。

—確かに。一個上の先輩のインスタは、オーロラとハスキーしか載ってなかったですよ。

—もうそれ強すぎるもん。ハスキーめっちゃ可愛いもん。

—えーいいなあ。触りたい。

—なでなでしてたで。そんな小っちゃくないで。こんなんやで。こんなだつて犬がソリ引くんやから。

—確かに。十匹ぐらいが引きますか？

—そうやな。俺ん時は男四人乗ってたから十五匹ぐらい。めっちゃ多かった。

—三十分ぐらい引かれますか。

—えー、どんなんやろな。三十分ぐらい引かれるんかな。—すご。

—コースがあつて、なんか犬が前で走つて、めっちゃ楽しい。—えー、行きたいです。スキーはしますか。

—スキーはせん。

—じゃあ主な観光はサンタ村とハスキーと、なんやったつけ。—オーロラと。

—あと、オウルの街とかの観光。普通に。普通に観光がある。—もうヨーロッパの街並みみたいな感じですか。

—そんな感じ。めっちゃ綺麗。

—いいな。憧れがあるくないですか。やっぱそういうの。

—わかる、わかるで。なんか日本とちゃうからいいよな。あと、なんかあったつけな。

—全員が言うのが、自分のコースが一番やったつて言つて帰つてくるみたいな。

—結局はそうやな。でもフィンランドは良かったで。ご飯が美味しい。

—日本系ですか。

—日本人でも食べれる料理やな。あの、サーモンめっちゃ美味しかった。

—絶対美味しくないですか。ノルウェーとかがサーモンいっぱいじゃないですか。だつて近いじゃないですか。え。絶対美味しいですよ。

—美味しかった。

—めっちゃいいな。あと、ポテトが主食ですか。

—そうやな。でもさ、ホテルで食べるご飯とかは、パンとか。

—もうパンとか美味しそう。

—自分でバイキングやから。

—バイキングなんすか。めっちゃよくないすか。じゃあ今年も同じホテルやったら。バイキング。

—基本同じやと思う。あと全部系列のホテルやから。

—じゃあホテルステイやったら。大体同じ感じ。

—そうやな。国はどうなんやろ。国によつて違うんかな。他の人たちは場所、あんまり移動せえへんのよ。同じ都市にいんねんけど、フィンランドは移動三回もするから。オウルと大学があること、あともう一か所移動する。ぼんぼんぼんつて移動すんねん、三か所。それが全部系列の、親会社と一緒にやったから、なんか大体似てた。

—めっちゃよくないですか。それで、結構良い感じで。綺麗やつたですか。

もちろん綺麗やったで。

―結構あり、結構あり、結構あり。てかマジ、ドイツか、フィンランド。

ドイツってどういうやつなん。何すんの。

―もう歴史系で、今年七十人いて倍率絶対低いんで、ありかな、みたいな。で、何するんやろ。現地の子と関わって、観光地一緒に巡るみたいなものもあるし、めっちゃ綺麗なところ行きます。建造物が綺麗なところ。それぐらい。ご飯はまあまあいい。美味いやつとまずいやつがあるらしいです。やからまあまあかなって言うてはりました。でも、アウシュビッツ行きたいんですよ。

行ってみたいよな。

―行ってみたいです。将来そんな金あるかなあ、みたいな気持ちになってくるから、今のうち行つといた方がいいかなって。

そやな。

―でも、フィンランドも、わざわざ行かへんくないですか。

絶対行かへん。

―行かへんですよね。寒かったですか？フィンランド。

零度は下回ってるけど。でもマイナス二十度とかまではいかなかった。マイナス七、八度ぐらいまでは。北海道よりも寒いんちゃう。でも風はない。風はないからすごい良かった。

―雪はいつも降ってますか。

雪はもう常に降ってる。昼間は降ってないな。朝起きて窓ばって開けたら雪バーって降ってた。あと怖い人おらへん。みんな優しい。二日間、丸々二日間自由行動があった。自分たちで企画しているんなとこ行つたんやけど。サウナも行って、あと博物館。サカバンパスピスの。あとは、図書館。あと一応遊園地みたいなところ。あとは、フェリーで島とか行って、路面電車乗って観光地行った。

感想

私と年齢が近かったので、親近感がある話を聞いたり、共通で知っている生徒や先生の話で盛り上がったので、楽しかったです。また、話をするとき、同じような視点から話してくださったので、進路や海外研修、高校生のうちにしたほうがいいことなど、ためになることを聞けてよかったです。今後、何か重大なことを決定する際は、この話を思い返したいと思いました。



右：語り手 谷本 幸多朗さん
左：聞き手 齊田 陽愛